様式第２号

平成２７年度　　独 創 的 研 究 助 成 費 実 績 報 告 書

平成２８年３月２４日

<table>
<tr><td>申　請　者</td><td>学科名</td><td colspan="2">造形デザイン学科</td><td>職 名</td><td>准教授</td><td>氏 名</td><td>関崎　哲</td></tr>
<tr><td>調査研究課題</td><td colspan="7">感光性樹脂版を用いたプリンティング表現の研究⑵　刷りの方法について</td></tr>
<tr><td rowspan="3">調査研究組織</td><td colspan="2">氏　　名</td><td colspan="2">所属・職</td><td colspan="2">専門分野</td><td colspan="2">役割分担</td></tr>
<tr><td>代表</td><td>関崎　哲</td><td colspan="2">デザイン学部
造形デザイン学科</td><td colspan="2">版画、絵画</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>分担者</td><td></td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>調査研究実績の概要</td><td colspan="7">１研究実績の概要
　本年度の目的として計画で示した、「感光性樹脂版」を版表現の媒体として用いる場合に適した「刷りの方法」を明らかにすることに関して、感光性樹脂飯の特徴を他の犯罪との比較によって明らかにすると共に、その特徴を活かす刷りの方法実践を記録することによって刷りの工程を具体的にまとめることができた。
　また、この研究成果の展開の可能性として考えていた「造形教育的教材としての利点の明確化」や「この素材を用いたワークショップへの展開の方法の提示」という部分では、９月に吉備路文化館において県内の小中学校の美術教員を対象として行ったワークショップを通して貴重な経験と情報を得ることができた。

２研究成果を用いた活動の成果
2-1 技法ガイド「樹脂版の特徴を生かした刷りの技法」の作成。（添付資料参照）
　凹版刷りを基本にしながら、樹脂飯の凹凸の深さと均一性を生かした単色刷り及び１版多色刷りの方法をわかりやすくまとめている
2-2 吉備路文化館～自画像で表現する～ワークショップ（2015.9.5）
　教育現場での感光性樹脂版の教材としての可能性を探るため、県内の小中学校の美術教員を対象として行ったワークショップ＊詳細は添付資料
実際の活動では、館所蔵のアンディ・ウォーホル「マリリンモンロー」の人間の姿をモチーフに作品化する手法を解説しながら、参加者自身の姿をモチーフにスタンプ版画の作成を行った。教育現場で、児童・生徒自身がこうした創作活動を通して、自分を見直す機会になる可能性なはいのか。実体を持たない情報としてのメディアが、露光されることで版として実体を持ち，それがすられることで作品が存在することになすこの感光性ジュ市販の特徴が、児童・生徒にどう伝わるか。など参加した先生方から意見感想を聴取した。</td></tr>
</table>

成果資料目録	１技法ガイド「自然光による樹脂版・刷りの技法マニュアル」 （感光性樹脂版の特徴を生かした刷りの技法） ２吉備路文化館～自画像で表現する～ワークショップ（2015.9.5）実施報告資料